

展覧会「ドム・ディム・ドム」報告書

山田智子

2022年5～6月、総合文化研究所主催にて反戦を訴える特別企画展示を行った。

企画の骨子と開催決定までの経緯

展覧会のタイトル「ドム・ディム・ドム (Дом Дым Дом)」はロシア語で、意味は Home Smoke Home。ロシアによるウクライナへの軍事侵攻によって破壊されるドム(建物)、戦禍のディム(煙)とプロパガンダのディム(煙たき)、個々にとってのドム(家族)をウクライナ、ロシア、ベラルーシ、日本出身のアーティスト7名が、それぞれの視点で表現した。

企画者は神奈川県在住のレーナ・アフラモワ。1976年にウクライナで生まれたユダヤ人である。ソビエト崩壊によりウクライナ国内が混乱していた1992年にイスラエルに移住。結婚を機に2001年来日。報道カメラマンを経てアーティストとして活動をはじめ、ウクライナ、イスラエル、日本という異なる文化圏で生活した経験を通して「家とは何か」というテーマを追った作品を製作し続けている。母語はロシア語。

今回の展示で最も大きな作品が「Song of Smoke」で、14枚の絵で立ち上る煙が描かれている。製作者はアフラモワの友人でモスクワ在住のナターリヤ・トロピーツィナ。この作品は2022年2月23日までモスクワで展示されていた。トロピーツィナの「Song of Smoke」とアフラモワの「家とは何か?」というコンセプトが今回の展覧会の基板となった。プロパガンダの煙たきを表していた「Song of Smoke」には軍事侵攻による煙の意味が加わったことになる。



記者会見にて 背景は「Song of Smoke」(右から2番目が筆者)



アフラーモワは2022年3月13日、筆者に「展覧会ができないか」と相談した。筆者はアフラーモワの草案を掘り下げ、日本語に訳し3月24日に沼野恭子教授に送る。沼野教授と林佳世子学長のおかげで開催は即決された。

展示までの準備と学生の取り組み

展覧会には有志7名のアーティストの作品が無償で提供され、設営と運営に必要な費用は学長裁量経費と総合文化研究所よりまかなわれた。

広報課の働きかけで5月16日に記者会見を開くことができ、新聞社6社が地方版、全国版などで記事にし、NHK WORLD-JAPANからはニュースと10分版の番組が放送された。

また、多くの学生に今回の惨事に触れ考えてもらうため入場を無料とし、社会の関心の高さに鑑み一般にも公開した。展示物の翻訳は学生が行い、設営に参加してもらった。展示期間中には学生がアーティストの母語で作品を紹介する動画も作り、YouTubeのTUFSC Channelにも公開。会場では学生が監視員として常駐した。

観覧者の反応

来場者はのべ約600名。半数は「記事を見て来た」という一般の人のようで、お話しした人の中には戦争を体験した方、ロシア語を教えている方、高校生もいた。国際基督教大学からはロシア語の先生と学生6名が自転車で来校し、学生たちは教師が作った教材プリントを手に鑑賞した。6月11日には日露の交流を深めるインカレサークルから8名が来場しさまざまな質問をしてくれた。

会場に「あなたにとっての家とはなんですか?」という質問に書面で答えてもらうスペースを作ったところ、67枚の意見が集まり会場にも展示した。沼野教授に寄せられた感想とともに一部を紹介する。

- ・家、それは安らげる場所。家、それは帰るべき場所。家、それは記憶の宿る場所。作品から感じたのは「痛み」でした。
- ・Homeとは家族であり、自分の子供たちが帰ってくる場所であり、落ち着くことができ、笑い合い、心地がよく、いつもおいしい食事をする場所である(ロシア語より訳)
- ・[カンボジア語専攻 岡田知子先生より抜粋] 王立プノンペン大学からきているカエプ・ソクンティアロアト先生と一緒に展覧会を見てきました。どの作品も作風が違って、訴え方も違って、これが現在進行形で戦争が起こっている地域に関連する作品を見ている自分、というのにも、通常の美術作品とは異なる、気持ちのもちかたへの不安定感も感じました。

展覧会を終えて

本展覧会は企画から一ヶ月半という早さで開催することができた。これは開催責任者の沼野恭子教授と広報の高坂香様、学生代表の片貝里桜さんがあらゆる面で迅速に動いてくださったおかげだ。学生課や総務の方々にも臨機応変な対応をしてもらい感謝している。

筆者は1999年に東京外国語大学、当時のロシア東欧課程ロシア語科に入学、モスクワでの語学留学をはさみ2004年に学部を卒業。フリーランスのラジオ・テレビ番組のディレクターとして働き、2022年4月からは仕事を続けながら修士として研究をしている。

マスメディアによる掲載一覧

1. 5月16日 共同通信社
2. 5月17, 18日 東京新聞
3. 5月19日 読売新聞多摩地区版
4. 5月19日 毎日新聞
5. 5月27日 日経新聞
6. 5月27日 朝日 DIGITAL
7. 6月3日 NHK WORLD-JAPAN News
8. 6月7日 読売新聞都民版
9. 7月4日 NHK WORLD-JAPAN リポート番組

期間：2022年5月17日～6月16日

会場：附属図書館2階ブラウジングスペース

開催責任者：沼野恭子教授

キュレーター：レーナ・アフラーモワ

参加アーティスト：Lena Aframova, Alyona Tolkacheva, Victoria Krokhina, 小原一真, Natalia Toropitsina, Ilya Erashevich, Ilya Baibikov

コーディネーター：山田智子

展示会デザイナー：Viktorija Makaускаite

記者会見通訳：中神美砂

学生統括：片貝里桜

サポートスタッフ：添田乙羽, 齊藤夏美, 池田詩麻, 宮原凜, 長谷川公樹, 山口晴夏, 木村真巳子, 矢田安曇, 真部友希子, 小副川将剛, 青木優太, 奥村文音



東京外国語大学
Tokyo University of Foreign Studies

特別企画展示

ドム・ディム・ドム

Дом・Дым・Дом Home・Smoke・Home

破壊されるドム(建物)、戦禍のディム(煙)と
プロパガンダのディム(煙たさ)、
個々にとってのドム(家族)をとらえた
反戦を訴える美術展

PARTICIPATING ARTISTS

Lena Aframova (Ukraine | Israel | Japan)
Alyona Tolkacheva (Ukraine)
Victoria Krokhina (Ukraine)
Kazuma Obara / 小原 一真 (Japan)
Natalia Toropitsina (Russia)
Ila Jeraševič (Belarus | Japan)
Ilya Baibikov (Russia | Israel | Japan)

CURATOR

Lena Aframova (Ukraine | Israel | Japan)

一般公開	2022年5月17日[火] - 6月16日[木]
開館時間	09:00~17:00 (土曜13:00~17:00)
休館日	日曜・6月2日[木]
主催	東京外国語大学 総合文化研究所
会場	東京外国語大学 附属図書館 2階 ブラウジング(閲覧)コーナー 入場無料
お問い合わせ	dom@dym-dom.art